



6月20日・21日 開催の第37回 九十九祭の様子

## 歯学部附属歯科衛生士専門学校校長就任にあたって

歯学部附属歯科衛生士専門学校校長 坂倉 康則



本年4月1日付で、歯学部附属歯科衛生士専門学校校長を拝命しました。近年、歯科衛生士は歯科医療のみではなく、口腔ケアを通して呼吸器疾患や全身疾患の予防を担う専門職となり、超高齢社会を迎えた地域社会の予防保健を担うことがますます期待されています。すなわち、歯科衛生士としての業務は従来の予防処置や診療補助を中心とした業務に加え、高齢者歯科、障害者歯科、介護や福祉など多様化してきており、患者等のライフステージに応じた教育内容に重点が置かれ、同時にチーム医療の一員としての知識・技術・態度が求められています。

こうした歯科衛生士を取り巻く環境が変化しつつある中で、本年3月には「歯科衛生教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」が改訂されました。このコア・カリキュラムには、歯科衛生士に求められる基本的な資質として6項目が挙げられています。その中には、「医療の高度化と社会環境の変化への対応力」「幅広い見識と豊かな人間性」などの他に、「多職種連携のできる歯科衛生士」「EBMIに基づく科学的な判断のできる歯科衛生士」という項目が掲げられています。このような歯科衛生士としての資質を具現化する歯科衛生業務のツールとして「歯科衛生過程」が歯科衛生学総論に載っています。その一般目標では、「人びとの歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決することの意義を理解する。」ことを求めています。歯学部附属校である本校では、

歯学部で活躍いただいている模擬患者さんのご協力を得て「歯科衛生過程」の実践的授業を臨床実習前に展開しています。なお、本教育プログラムは、本学の2017年度教育向上改善プログラムに選定されました。

加えて、「新医療人育成のための北の拠点」を目指す北海道医療大学の一員であることから、大学の特色の一つである多職種連携に関連した教科を充実させています。本校の教育理念に基づき、地域社会における歯科医療と歯科保健活動に貢献できる歯科衛生士の養成を目指し、地域包括ケアのコア的存在としての人材を育成するため、他学部の学生と共に学ぶ「個性差健康科学・多職種連携」では、医療・福祉・保健の現場での実例から看護師と理学療法士、薬剤師と作業療法士との連携などの在り方を学び、個性差から多様性についても学びます。また、言語発達障害学・介護概論・看護概論などの授業を通してライフステージに応じた知識・技術・態度の修得を目指しています。また、姉妹提携校のアルバータ大学(カナダ)での語学研修への参加、台北医学大学(台湾)やイエテボリ大学(スウェーデン)などとの学生交流を検討しており、グローバル感覚を培うことにも力を入れていきたいと考えております。本年8月には、台北医学大学口腔学部口腔衛生学科の女子学生3名を受け入れ、本校の教育を体験するプログラムを企画しております。

今後も社会ニーズに対応できる歯科衛生士の養成を目指して、教育内容をさらに充実させたいと考えております。

## CONTENTS

歯学部附属歯科衛生士 専門学校校長就任にあたって	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
2015年度入試結果報告 北海道医療大学—サハリン州 交流協定締結及び 「健康科学に関するシンポジウム」を開催	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
2016年度 入試概要	6
私の学生時代	8
OB訪問「歯学部」	9
学校法人東日本学園 ○2014年度決算 ○2015年度予算	10
新入生アンケート結果報告 EDITOR'S NOTE	12